

# 近畿管内の荒廃農地解消の優良事例(令和3年3月)

地域名	取組	頁	荒廃農地再生の取組							
			新規就農	6次産業化	農地中間管理機構	農福連携	鳥獣害対策	地域・集落の共同活動	その他	
滋賀県東近江市	農地環境整備事業等に伴い荒廃農地を解消	1						○		○
京都府京丹波町	機構条件不利農地整備支援事業等を活用し、荒廃農地を再生、農地集積・集約化	2			○					
兵庫県香美町	但馬牛の放牧地として活用し、荒廃農地を再生	3			○			○		○
奈良県宇陀市	農地中間管理事業等を活用し、荒廃農地を再生	4			○					

本資料は、各事業を活用して荒廃農地の再生を行い、新たな担い手の育成・確保、農地中間管理機構を通じた農地の集積・集約化及び地域・集落の共同活動等により、荒廃農地の解消・発生防止の実現に取り組む先導的な地域の事例を紹介するものです。

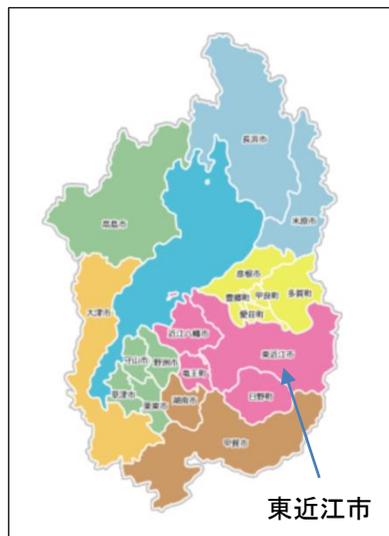
荒廃農地の発生に悩む地域の課題等は、様々なものがありますが、これから荒廃農地の解消・発生防止の取り組みを考えている地域の参考にさせていただければ幸いです。

## 農地環境整備事業等に伴い荒廃農地を解消した取組事例

## 1. 地域農業の状況

○ 東近江市は、平成17年及び平成18年の1市6町（八日市市、永源寺町、五個荘町、愛東町、湖東町、能登川町、蒲生町）の合併により誕生した。

○ 愛知川と日野川の流域に平地や丘陵地が広がり、緑豊かな田園地帯を形成している。



東近江市

○ 恵まれた気候風土を活かして、水稻を中心に、麦、大豆、野菜、果樹、花き、畜産が盛んである。

○ 米の食味ランキングで直近5年間で4度特Aを獲得している「みずかがみ」の生産が盛んである。一方、「儲かる農業」を確立するための高収益作物（冬キャベツ等）の作付拡大を進めている。

○ 地域を取り巻く課題として、特に中山間地域においては、サル、シカ、イノシシ等による作物被害（獣害）が深刻な状況にある他、農業者の高齢化、担い手不足により荒廃農地が増加している。

## 2. 地区概要

事業主体 滋賀県

地区名 相谷（あいだに）地区

再生面積 2.8ha

取組年次 平成19年度～令和3年度（予定）

作付作物 水稻 他

販路 地元JAへの出荷および直売所

## 3. 取組内容及び効果

○ 相谷地区は、東近江市永源寺相谷町に位置する中山間地域である。農地は愛知川沿岸部に形成されているが、不整形な農地であり、用水の確保にも苦勞する環境で、しかも野生鳥獣による被害もあり、不作付地が虫食いの的に広がっていた。

○ 平成19年度から、区画整理や農道・用排水施設の整備、また獣害防止柵の整備事業を実施した。ほ場整備を契機に、農作業の効率化を図るため地域住民が農事組合法人を設立し、農地集積が進められた。

○ 本事業実施により営農が再開された他、人・農地プランの実質化が進められ、農地の集約化が図られた。あわせて、獣害にも強い高収益作物（コンニャク、ショウガ等）の栽培を進めることにより、地域農業の生産性が向上した。



(実施前) 不作付地



作業効率が向上



獣害防止柵の整備

活用した支援策 H19～ 農山漁村地域整備交付金（国）  
H19～ 県営中山間地域総合整備事業（県）

## 1. 地域農業の状況

○京丹波町は、京都府のほぼ中央部にあたる丹波高原の由良川水系上流部に位置し、東は南丹市に、西は福知山市に、北は綾部市に、南は南丹市及び兵庫県丹波篠山市に接している。古くから、丹後・山陰地方への交通の起点として栄え、現在も京都縦貫自動車道が走り、京都市などへの通勤圏となっている。



○農業は、主産業として発展してきたが、近年は、高齢化の進行と後継者不足など農業を取り巻く環境が変化し、農家数、経営耕地面積等は年々減少している。土地利用型作物である水稲、豆類等が多いが、近年では、機械化による農作業の省力化が図られるようになり、黒大豆、エダマメの紫ずきん等やパイプハウス施設を利用した伏見とうがらしなどのブランド京野菜の生産が増加している。

○畜産は、京丹波町の農業粗生産額の約2分の1を占めており、府内でもトップクラスの産業になっている。

○林業は、丹波ブランドのひとつ「丹波栗」やキノコの新たな主力品目である間伐材を活用したハタケシメジ等の栽培が行われている。

## 2. 地区概要

取組主体 農業者1名（個人）

地区名 上豊田（かみとよた）地区

再生面積 0.71ha

取組年次 令和2年2月～令和2年3月

作付作物 水稲

販路 J A等に出荷

## 3. 取組内容及び効果

## 府事業を活用し、荒廃農地の再生と担い手への農地集積を実現

○上豊田地区は34haの農地で水稲を中心に作付けされ、本事業実施者が代表を務める上豊田農業施設管理委員会（33名）がライスセンターを運営している。

○当該農用地は従前から荒廃農地となり、進入路や農道が破損し、排水機能が低下するなど耕作条件が不利な状況になっていたが、機構条件不利農地整備支援事業を活用して水田及び周辺の畦畔部、法面、路肩、用水路、排水路を再生した。

○農地中間管理事業により新たに0.71haを中核的担い手に集積した。

荒廃農地（再生前）



再生された農地



農道の復旧



排水路の復旧

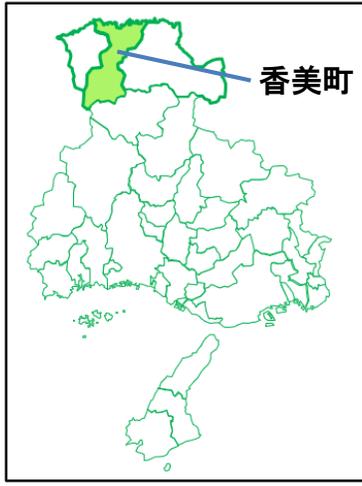


活用した支援策 R元 機構条件不利農地整備支援事業（府）  
R元 農地中間管理事業

# 【村岡地区】放牧地として但馬牛の増頭に活用される耕作放棄地 [兵庫県香美町]

新規就農	企業参入	6次産業化	農地中間管理機構
農福連携	鳥獣害対策	地域・集落の共同活動	その他

## 1. 地域農業の状況



- 香美町は、兵庫県北部の但馬地域に位置し、周囲を1,000m級の山々に囲まれ、林野が86%を占める。農業は稲作を中心としており、農地の多くは棚田である。また、古くから但馬牛の種牛産地として知られるほか、近年では小豆や梨、わさびなど地域特産品の栽培も盛んである。
- 本地域では、昭和40年頃まで牛は各集落にある放牧場で朝から夕方までの時間放牧が行われていたが、昭和40年代から放牧は衰退し、牛舎で集約的に管理するようになった。昭和63年には、アメリカと合意した牛肉の輸入自由化等に対処するため、県などが低コスト・省力化に資する新たな放牧技術を開発。平成3年頃からは、夏期のスキー場やゴルフ場跡地を活用して共同放牧場を整備するなど、放牧の推進を図っている。
- 本地域では、過疎化・高齢化による担い手不足や、野生鳥獣害による生産意欲の減退等に伴う荒廃農地の増加が大きな課題となっている。

## 2. 地区概要

取組主体	集落、畜産農家、耕種農家	地区名	村岡区（旧村岡町）
再生面積	8.0ha	取組年次	平成14年～
放牧動物	但馬牛	販路	—

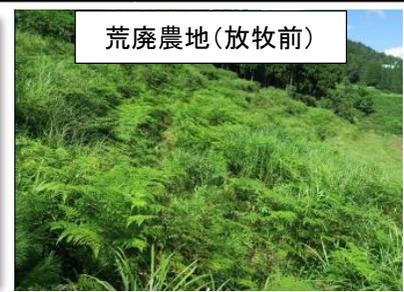
## 3. 取組内容及び効果

### 耕作放棄地を但馬牛の新たな放牧地として活用

- 村岡区（旧村岡町）では、連作障害や鳥獣害で栽培されなくなった農地が増加。平成14年に集落と畜産農家が連携して「耕作放棄地を但馬牛の新たな放牧場として利用できないか」検討。牛舎周辺の耕作放棄地0.7haを電気柵で囲み、牛2頭の終日放牧を開始。
- 牛は人の背丈を越すような草でも採食することから、耕作放棄地での放牧は、草刈りにかかる労力が大幅に軽減されるほか、人と野生生物を隔てるバッファゾーンとしても有効。また、耕作放棄地での終日放牧は、飼料費や飼育管理にかかる畜産農家の負担を軽減するほか、牛舎の空きスペースを活用することにより、発育ステージに合わせた子牛の飼養管理を実現。
- 村岡区では、この取組みが始まった平成14年に64haであった放牧面積が、令和元年には112haに拡大。これまでに、集落と畜産農家、農地所有者などの連携により、3地区の放牧地で但馬牛23頭を放牧、8.0haの耕作放棄地を再生。
- 令和元年度からは、農地中間管理事業を活用し、耕作放棄地の解消を希望する耕種農家と放牧を希望する畜産農家とのマッチングも開始。今後も耕作放棄地の活用による農地の管理を進めていく。

### 活用した支援策

- H20 遊休農地等活用放牧推進事業（県）
- H22 国産飼料資源活用促進事業（国）
- R2 農業遺産「但馬牛」放牧拡大事業（県）



荒廃農地（放牧前）



棚田での放牧



放牧により再生された農地

## 農地中間管理事業等を活用し荒廃農地を再生した取組事例

## 1. 地域農業の状況

○ 宇陀市は奈良県の北東部の大和高原とよばれる高原地帯に位置し、一定の平野部を有しているものの山林が全体の7割を超える土地利用の状況です。

三重県と接しており古くから大和と伊賀、伊勢を結ぶ東西交通の要衝であり、宿場町として栄えました。現在は市の中央部を近鉄大阪線が通っており、大阪市街まで1時間で結ばれる距離にあります。

平成18年に宇陀郡の大宇陀町、菟田野町、榛原町、室生村の4町村が合併し宇陀市となりました。



○ 農業は水稻が基幹ですが、後継者難や鳥獣害被害などにより耕作放棄地も進んでいる状況です。

基幹産業である農林業の再生・活性化を図るため、

・1400年の伝統を受け継ぐ「葉草のまち宇陀」の全国発信

・高原野菜等のブランド化

・宇陀産材の普及及び森林の保全

を「宇陀市まちひとしごと創生総合戦略」に盛り込み取り組んでいるところです。

解消前



解消後



## 2. 地区概要

取組主体 株式会社 Sakura Farm

地区名 大宇陀（おおうだ）地区

再生面積 0.93ha

取組年次 平成28年～平成30年

作付作物 小松菜、カブ、花菜、ほうれん草等

販路 野菜商社（スーパーマーケット）、市場、外食産業等

## 3. 取組内容及び効果

## (1) Sakura Farmの農業展開

○ 宇陀市の西隣である桜井市でブルーベリーを中心に栽培を行ってきたが、野菜についてはより大きな圃場を求めて宇陀市へ「引越」を行いました。

直ぐに良好な圃場が借りられるとはいかず、耕作放棄地を整備して野菜畑としました。

再生作業



## (2) Sakura Farmによる営農

○ 宇陀市では水耕栽培と露地栽培の両者を行っています。安心、安全など高付加価値品質に取り組んでおり、国際規格である「農業生産工程管理手法(GAP)」を取得して生産体制を整えるとともに、企画から生産、梱包、運搬、販売までを一体で取り組んでいます。



活用した  
支援策 H30・R1 農地中間管理事業

H28～30 耕作放棄地再生利用緊急対策交付金（国）等